

里山グループ

戸田 博子

◆花と妙薬

里山グループに入れていただいて、ほぼ1年になる。国道24号やならやま大通りの車の音も聞こえないほど、いろいろな作業に没頭した。

2月号に、菊川さんも薪割りのことを書かれていたが、ガスや電気が豊富に使えなかった時代には薪割りは通常の作業であり、今ほど「里山」を取り立てて話題にしていなかったと思う。

ナラ枯れの木、他の木を生かすために伐られた木など薪の材料には事欠かず薪割り作業をしている。

割っている木の断面を見ていると、この木の生きてきた年月を想像してしまう。大きな節があれば「痛い思いをして成長したのか?」。年輪が黒いと「気候が激しく変化したのか?」。木からたくさん甲虫類の幼虫が出てくることもある。突然明るくなって、慌てて木に逃げ込もうとしている。幼虫は樹液を吸いながら成虫になるわけだから「木も弱っていただろうな?」。

見ているうちに、人間の生き方も同じような気がしてくる。少し落ち込み気味な心を修復してくれるのが、周りにある元気な樹木たちだ。

5月から7月にかけて白い花を咲かせる木が多い。個人的には、カエデ、ナラ、クルミなど緑色のつり下がった花が好きだが、一瞬で周りを明るくする白い花は、心の中の雑色をリセットして活力をくれる気がする。

パトロールグループの方が、毎回花の情報を提供してくれる。「ウワミズザクラ」「ザイフリボク」「ウツギ」名前は忘れやすいが、花の姿は記憶に残る。

木の「人生?」を思い、虫の動きに哀れみを感じ、木の花にうれしさをもらう。

里山は、病院で治療し投薬してもらうだけでは得られない、形のない「妙薬」をくれると思う。

これは個人の感想だが、この会にこられるかたがたは多少なりと賛同されるかな?



里山の今

エコファームグループ

小山 喜与男

◆種子考

「今年は野菜の種を収穫して、それを栽培に活かしたい」リーダー萱野さんの年頭所感である。種の大半を園芸材料店から購入している現状を指して、今年は自家採取を試み経費の抑制を意図した提言と受けとめた。

昭和20年代を田舎で過ごした吾が家では、種は畑で穫っていた。僅かな畑地の片隅にナス・キュウリの優れものを種用に数箇残し、稔らせ熟した姿は化け物のような醜態をさらしていた。ネギ坊主を束ねて軒下に吊したり、カボチャやマクワウリの種も箆に展げて干した。こまめな母の所作が目につぶ。

種は購うものでなく、自家採取で切り廻していた。岩手の久慈市ではお婆さん達が、今でも豆の種を交換する風習があるという。

我がエコファームで蒔く種は多種に亘る。なかでも印象深いのが「YRくらま」と名乗るダイコンだ。Yはイエロー（萎黄病）Rはレジスタンス（抵抗）、葉の黄白化を防ぐ処置が施してある。フランスのレジスタンス運動を連想させる名称に名付け親の苦渋が偲ばれる。「F1」も初耳だ。「F1ハイブリッド」が正式名で、京都のタキイ種苗がアブラナ科で採用に成功。斉一性、早熟性、強健性、多収性などの長所があり、今やF1万能時代と云われる。フィリアル（子供としてふさわしいの意）の頭文字Fが出所。

購入した種の袋の生産地をみると外国名が圧倒的に多い。これら諸外国での狙いは、人件費などコスト抑制もあるが最も大きな理由は種の病気を誘発する梅雨期のない土地を確保する点にある。梅雨のない北海道は生産地として健在だ。

夏野菜の苗の植え付けも一段落し、育成期の真っ只中、その一隅に背を伸ばし黄色く咲き誇るナバナの群れが見受けられる。これが熟成し種子となり、次代に引き継がれていく。生生流転の極みである。

景観グループ

有元 康人

◆竹林の整備

今年のタケノコの収穫も終わりましたが、多くの方が春の旬を味わえたのではないのでしょうか？

タケノコの国内生産の割合が8%しかないという2009年4月の現代農業に載っていましたが皆さんご存知だったのでしょうか？現在の生産割合がどうなっているのか、加工用だと思いますが、どこから輸入されているのか気になります。

竹林も、除草をして傘をさして歩ける範囲に間引きを行うなど景観グループで定期的に整備してきました。

皆さんも感じてもらっていると思いますが、管理地の多くの竹林、特に実りの森では、美しい姿に変貌しています。

竹林で生産されるものは、タケノコだけではありません、それ以外にも工作用、梁や支柱用、竹炭、飼料やコンポストなど多種にわたります。

土木建築用では竹そのものを必要な寸法にして利用しますが、コンポスト用では竹をパウダー状にチップパーで粉碎してから堆肥化を行い利用します。孟宗竹にはチッソ：0.3%、リン：0.2%、カリ：0.7%、その他ケイ素やホウ素も含まれているといわれています。コンポストは、他の肥料と併用が必要になりますが、さまざまに使っていただくと竹林整備に力が入ると思います。

竹林整備の一つの方法として、NPO法人（フォレストぐんま21）で取り入れている方法が文献に載っていました。12月～2月に竹を1m程度の高さに伐採すると3月～4月に根から水を吸い込み切断部分から流れ出るそうです。多くの水を吸い上げることで根から枯れ、1年後に竹の先端をゆするだけで根がポロッと取れるそうです。

現状の方法では、竹の切断で残った根っこの部分があり、足を引っかけて転倒する事があります。根っこが無くなるとこの危険から解放されます。

この方法を、試してみたいと思っています。



里山の今

パトロールグループ

小島 武雄

◆パトロール REPO

愛すべきならやまの自然を守るための、環境保全パトロールをしています。今回A地区の整備に取り組みました。このエリアはベースキャンプ西

側でならやま大通り沿いの田と池の北側で、ここにも観察路があります。大通りからは竹やぶで隔てられて思いの外静か



です。ミツバチの巣箱を横に見て、畑から観察路への坂を登ります。すぐそばには栗の木があり秋には小ぶりの栗がたくさんとれます。肉桂の木がある所から西に椿の中を歩くことができます。ここにはナラ枯れの被害もありません。気持ちよく木漏れ日の中を歩くことができ、適度な日陰で大切にしている保護植物も多く見ることができます。

パトロールGでは、しばらくの間手を入れておらず荒れていたのですが、やぶを切り開き新たに道を作り西の端のJRの境界まで観察路を伸ばしました。急斜面には丸太階段を4箇所新設して、歩きやすく整備しています。

既設の4コースに比べては短いですが、平坦な雰囲気の違いが観察路になりました。今後はならやま大通り



沿いに伐採され放置されている見苦しい竹材の山を片づけ、コース案内標識や手すりを設けて整備し、A地区観察路として皆さまに楽しんでもらえるようにしたいと思います。

ならやま虫だより

菊川 年明



ならやま花だより

桜木 晴代

◆ホソオチョウ

今回は、ならやまに希に現れるホソオチョウというチョウについてのご紹介である。

このチョウはアゲハチョウ科に属するが、大きさは見慣れているアゲハチョウ（ナミアゲハ、以下同じ）よりずっと小さく、モンシロチョウよりは大きいかなという程度である。

色彩は雌雄で異なり、オスは白っぽく、メスは濃紫の斑紋が多いので少し黒い感じである。後翅にアゲハチョウのような尾状の突起があり、これが細長いので「ホソオ」の名が付いている。

このチョウは元々が国にはいなかったチョウで、原産地は中国、朝鮮半島などである。1970年代の後半頃に何者かが持ち込んで東京都下で放ち、その後、国内のあちこちに拡散して、1990年代には京都府下の木津川河川敷（現木津川市域など）でも見られるようになった。国内での拡散も人為的なものと言われている。

現在生息が知られている都府県は少なくないが、生息場所は局地的と言われている。ならやまに現れるものは木津川からの飛来と思われる。飛翔力は強くないので、風に流されるなどしてのことかもしれない。

幼虫の食草はウマノスズクサで、ジャコウアゲハの幼虫の食草と同じであるので、ジャコウアゲハに悪影響があるのではないかと心配もされている。

ホソオチョウはジャコウアゲハと同じようにゆっくり、ひらひらと飛ぶ。ジャコウアゲハと同様にウマノスズクサ（有毒植物）の毒を体内に蓄積し、天敵に襲われる心配がないのかもしれない。



(ホソオチョウ オス)

(同 メス)



◆万葉花

絵画に描かれている花や、万葉集に詠まれている花にはどのようなものがあるのかは興味深いのですが、ならやまにも万葉集に詠まれている花がたくさんあるに違いありません。その花たちに幾つ出会えるか楽しみです。その一つがアセビです。

**磯の上に 生ふる馬酔木を 手折らめど
見すべき君が ありといはなくに**

大伯皇女（おおくのひめみこ）

（川の辺の岩のほとりに生えている馬酔木の花を手折りたいけれど、それを見せるべきあなたがこの世にいるわけではないのに）亡き弟、大津皇子を思い、悲しい気持ちを詠んだうたとされている。



アセビの花



アセビの実

アセビ（馬酔木） ツツジ科 アセビ属

* 東アジアと北アメリカに8種類ほどある

* 常緑低木 高さは1～8メートル

* 「あしび」は「足しびれ」や「悪し実」から名がついたと言われている

* 馬が食べると酔ったようになり、人間も呼吸中枢を麻痺させる有毒植物

* 有毒成分を利用し、葉や茎の煎汁はハエ、ウジの殺虫剤や牛馬の皮膚寄生虫、農作物の害虫駆除に用いる

アセビは多くの別名を持っています。

アシミ・アシビ・アシブ・アセボ・アセブ・ドクシバ・テカキシバ

その他奈良公園の鹿も葉が有毒のため食べないことから、シカクワズという名までであるということです。

早春のならやまの森で見つけてください。